

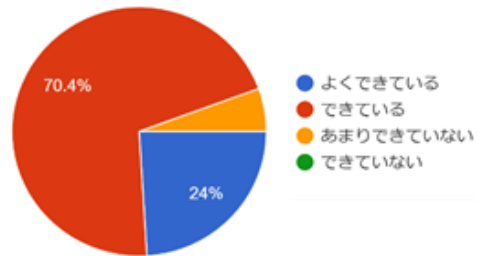


R4 1学期 学校評価（保護者）の結果

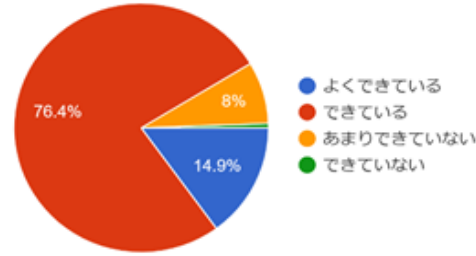
日頃から学校からの調査にご協力いただきありがとうございます。今回も 90%近くの回答がありました。自由記述については、全体に関わる内容を紹介し、学校としての考えを載せてあります。

○ 調査期間 R4.7.13～R4.7.19 ○ 回答率 87.3%

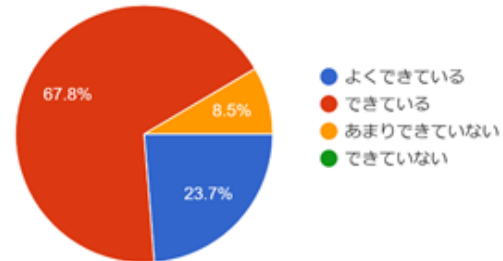
1 学校は、子どもたちが意欲的に学習し、理解できるように取り組んでいますか。



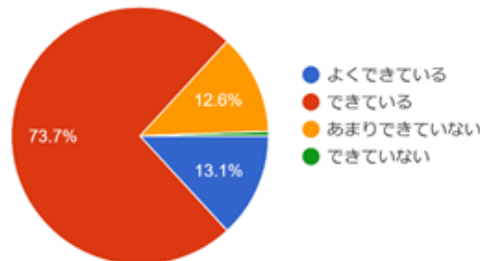
2 学校は、いじめの早期発見やいじめ防止に取り組んでいますか。



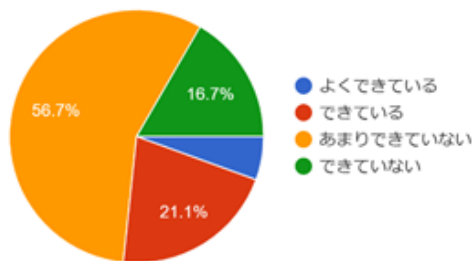
3 学校は、子どもの良さをを見つけ、子ども一人一人を大切にされた教育活動を行っていますか。



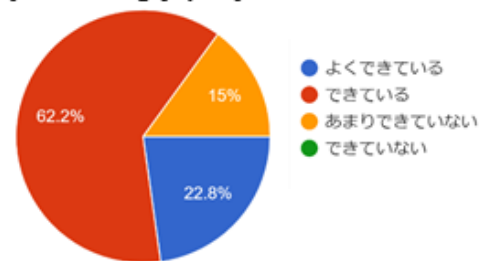
4 学校は、子どもたちの困り感に気づき、適切な支援（指導）をしていますか。



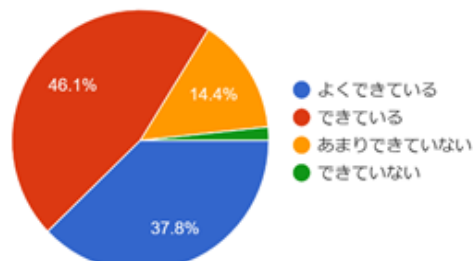
5 お子さんは、毎日 20 分程度の読書をして、本に親しんでいますか。



6 お子さんは、「おはよう」「ありがとう」「ごめんなさい」などの言葉を素直に言うことができますか。



7 登下校時、少しでもお子さんを歩かせるようにしていますか。



8 「早寝・早起き・朝ごはん」に取り組む、お子さんが規則正しい生活ができるように努めていますか。



* ほとんどの項目で「よくできている」「できている」の割合が高い結果となっています。しかし、「毎日 20 分程度の読書」では、「あまりできていない」「できていない」の割合が過半数を超えています。学級 P T A 等で話題にしていきたいと思います。

○ 自由記述

Q 1 体育館シューズのサイズが 1 c m 刻みです。0.5 c m 刻みにできないですか。

業者に確認しましたが、0.5 c m 刻みのシューズはないとのこと。お子さんに合うサイズを家庭で準備されても構いません。

Q 2 P T A 等の行事があるとき、児童を学校に残すことができますか。

放課後は、職員の会議等があり、児童を管理することができません。そのため、速やかに下校するよう指導しております。ご理解ください。

Q 3 障害のある児童の特性を全児童に理解させてほしい。

障害のある児童をはじめ、困り感のある児童についての理解は、これまでも特別支援教育コーディネーターを中心に職員間で情報共有しています。今後も担任から児童へ学年の発達段階に応じて説明していくように努めます。また、児童間で差別、偏見が生じないように細心の注意を払い、指導していきます。

Q 4 メールでの配信の使い分けがありますか。

R 2 から徐々にペーパーレス化を図り、R 4 は、ほぼメールでの配信をしています。現在、紙媒体で配布している資料は、P T A の一部の資料、学校だより、学級通信等ぐらいです。今後、学校だよりもメールで配信する予定です。どうしても紙媒体でないと問題が生じる資料があれば改善していきますので、ご意見をください。（給食献立表は紙での配布に戻します。）

Q 5 裏門に車を駐停車する方がいます。横断歩道を渡るとき危険です。

これまでも再々、裏門の駐停車の厳禁を呼びかけております。裏門に車が停車することで、横断歩道を渡る児童は左右を見通すことができず、横断歩道の真ん中まで行ってようやく左右が確認できる状況となります。そこに車が来れば、事故につながる可能性があります。この状況を是非とも想像してみてください。児童の安全を守るための行動を保護者全員で取り組んで行きましょう。

わたしたち、ほめ上手になりましょう・4

特別支援教育担当 わかば学級・木佐貫陽

今月は「強化」について考えてみましょう。

「強い子に育てること」ではないですよ。ここでいう「強化」とは、子供が好ましい行動をしてほめられて、よりいっそう頑張ろうと考える。これが「強化」のメカニズムです。

①指示をしていないのに、子供が自発的に好ましい行動をした。



②保護者や教師が子供の行動に気づき、ほめる。笑顔で声をかける。



③子供が「自分はいいことをしたんだ」と感じて、その行動の頻度を増やす。

例：子どもがなにげなく、ゴミをまとめ始めた。そこでひと言感謝すると、子供の行動が「強化」される。

“わー、ありがとう。たすかる～”

逆効果の「強化」もあります。

騒いで注意された子が、次はもっと騒いで気を引こうと考える場合もあります。保護者や教師の意図とは逆になってしまいます。

子供をほめて好ましい行動を強化すると同時に、好ましくない行動は無視して強化しないようにしてみましょう。

夏休みも約 1 ヶ月！お手伝いや学習など、気持ちよくチャレンジできたらいいですね。

* そうそう、「わー、たすかる～」のあとに、「いつもそうだといいのね。」とか「つぎは、〇〇と〇〇もね。」と言ってしまうのはガマン・ガマン。